

PAWEES の活動と展望 Activities of PAWEES and Its Prospect

松野 裕*・○中村公人**

Yutaka MATSUNO・Kimihiro NAKAMURA*

1. 背景

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES) は 2003 年の設立以来、農業農村工学会、韓国農業工学会、台湾農業工学会の支援のもと、水田稲作農業を核とした水環境分野における科学・技術振興を主にアジアにおいて推し進めてきた。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE) は、2009 年にインパクトファクター (IF) の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録された。PAWEES 会長は 3 カ国が 2 年ごとに持ち回り、今年からは台湾の Chien-Hsin LAI (頼建信: 台湾経済水利部署) 氏が会長となっている。次期会長は 2021 年に日本から選出される。PAWEES 事務局は農業農村工学会内に 2011 年以降固定されている。

PWE 誌の刊行以外に、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビュー一賞の授与式が開催されている。国際研究集会は毎年 1 回、韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっている。農業農村工学会が主催する年は意識的に日本以外で開催してきたが、各国の要望もあり 2018 年は久しぶりに日本で開催された (表 1 参照)。

2. 2018 年の活動

2018 年の PAWEES 集会は、国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) との共同開催とし、「PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018」として、奈良県の全面協力のもと、平成 30 年 11 月 20 日 (火) から 22 日 (木) にかけて、奈良県春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~で開催された。会議では、21 の国・地域、4 つの国際機関の研究者、政策立案者、エンジニア、民間部門を含む総数 552 名 (国内参加者: 332 名、海外参加者: 220 名) が、共同テーマを「SDGs(持続可能な開発目標)に向けた持続的な水田農

*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kindai University

**京都大学大学院農学研究科: Graduate School of Agriculture, Kyoto University

キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

業」として、議論を行った。PAWEES 側は、サブテーマを「土地、水、環境のスマートマネジメント」として、参加者数 336 名を得て、各テクニカルセッションおよびポスターセッションにおいて、活発な議論が行われた。テクニカルセッションでの口頭発表が 94 件、ポスターセッションが 134 件あり、過去最大規模の集会となった。

表 1 過去の PAWEES 研究集会開催国と都市

年	国	都市	年	国	都市
2003	日本	京都	2011	台湾	台北
2004	韓国	安山	2012	タイ	ノンタブリ
2005	日本	京都	2013	韓国	晋州
2005	台湾	台北	2014	台湾	高雄
2006	日本	宇都宮	2015	マレーシア	クアラルンプール
2007	韓国	ソウル	2016	韓国	太田
2008	台湾	台北	2017	台湾	台中
2009	インドネシア	ボゴール	2018	日本	奈良
2010	韓国	済州	2019	韓国	ソウル

3. 今後の展望

2019 年の研究集会は、韓国ソウルにおいて再度 INWEPF と共催して開催する。近年の INWEPF との連携を挙げるまでもなく、PAWEES はその対象とする学術分野での成果を研究者間だけではなく、技術者や行政に向けて広く共有していく行動計画を策定することが近年求められてきている。それを踏まえれば、大学や研究機関の研究者のみならず今後はメンバー国の行政機関や国際援助機関、NGO などとの実体のある連携をより一層模索していくことが必要であろう。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模で PAWEES の活動の場を広げていくに不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。PWE においても、投稿論文数が増加している状況でその管理体制の強化を考えた場合の財政的な負担増にどう対処していくかの積極的な議論が必要であろう。学術ジャーナルの電子化が積極的に展開されている状況において、購読者や論文購買者数の増加は、購読料収入のロイヤルティ増加に直結することであり、今後も PWE の積極的な宣伝および知名度向上に努める必要があるだろう。PAWEES 発足以来 15 年以上が経過し、近年の PAWEES の活動は PWE と共に進展が見られているが、今後のさらなる発展を目指していきたい。